

技術革新時代と銅

(社)日本銅センター会長
 (古河機械金属株式会社 代表取締役)

相馬 信義



現在、銅価は歴史的な低落を示している。昨夏9,000ドル／tにあと15ドルの線までに迫る史上最高値を記録した後、年末にかけてほんの数ヶ月で3,000ドルを割り込んだ。

寄稿に際して何かもつとロマンに相応しいものを、と考えを巡らせてみたが、この時期どうしても銅の市況に目が向いてしまう。(08年12月)

思うに、銅価は今世紀の変わり目前後の長期低迷から、新興国の爆発的需要に先導されて前述の最高値まで上り、需要はこの間大幅な拡大を続けて来た。当センターの事業目的からすると誠に喜ばしいことであるが、一方では過度の高値が続くと需要サイドで代替や削減の動きが出て来ることは否めない。痛し痒しである。

もともと歴史的に銅が人類と親しい関係にあるのはご存知の通りである。人類はストーンエイジを経てブロンズエイジを築いた後、アイアンエイジの隆盛を見るが、銅はこの間の強烈な淘汰時代を乗り越えた原体験を通して、現在我々の生活に確固たる位置を占めると同時にメタルの代表的存在で在り続けている。米英では時に警官を「カップ」と呼ぶことがあるが、たまたまその由来を目にしたことがあった。保安官や警官の胸のバッジは大抵銅以外のメタル製である。それにも拘わらずカップ転じてカップと呼ぶのは、一般に銅をメタルの総称と見て使用していたからである、とあった。世の銅に対する認識を示す一端であろう。

これに類する話は他にもあると思われるが、銅が非鉄ベースメタルの主要な存在にして、人類との高い親和性と有用性を

保持していることは歴史に明らかであり、技術革新の現代にあつてもそのパワーを発揮して行くことは疑いのない所である。その好例として、近年関係者の努力により銅の殺菌効果に対する認識の輪が広がっている。米国環境保護庁(EPA)からは逸早く殺菌効果の表示認可を得ることが出来ており、国内でも当センターによりことある毎に積極的にPR展開されているのはご承知の通りである。

当センターは銅の持つパワーをより一層引き出し、銅と人間生活との親密さを増進するよう日々努めている。広く関係者の皆様のご支援をお願いする次第である。



米国環境保護庁(EPA)



心臓部に銅箔が多用される電気自動車
 (CO₂削減EV洞爺湖キャラバン、日本EVクラブ主催、2008年6月、撮影:三浦 康史)

銅

目次

2	カパーロマン 技術革新時代と銅 相馬 信義
3	銅の歴史物語 半世紀にわたり まだまだ続く誤解への挑戦
4	カパーワールド 到来する電気自動車時代を支える 電解銅箔のミクロな技術
6	リレー随想 必要自然 この方程式の中に秘められた美
8	銅を学ぶ銅話の世界 こんなにある 銅のアイデア製品
10	ルポルターージュ 銅とくらしのロータリー 東大寺大仏に使われた「銅の軌跡」
12	カパードリーム 室内に気候を創る
13	ICA News / 銅センターニュース トピックス